

エコアクション21 環境活動レポート

〔期間 2019年1月～2019年12月〕

発行日：2020年1月20日



IKK 石川金網株式会社
ISHIKAWA WIRE NETTING CO.,LTD.

事業内容

事業所名	石川金網株式会社
代表者名	石川幸男
所在地	〒116-0002 東京都荒川区荒川5-2-6
電話番号	TEL:03-3807-9761
FAX番号	FAX:03-3807-9764
環境管理責任者 E-mail	石川 カオリ info@ishikawa-kanaami.com
事業内容	金属加工・金網・フィルター製造販売
資本金	3千万円
従業員数	30名
売上高	600百万円（2018年1月から12月）
事業所の総床面積	1,906㎡

環境方針

基本理念

当社は、地球環境保全が人類共通の課題であることを認識し、社員一人一人が自覚を持ち、環境負荷の継続的低減及び持続的に発展できる経済社会の実現に寄与すべく努めることに全社一丸となって取り組みます。上記の取り組みの推進にあたっては、たえず事業の課題とチャンスを整理し、明確にしていく。事業内容、事業を取り巻く状況、事業と環境とのかかわり、それらの認識を社員一同共有した上で以下の環境保全活動を推進していきます。

行動指針

- 1 金網製品製造の事業活動を通じて、二酸化炭素の発生・廃棄物の発生・総排水量（水の総使用量）につき、前年を上回ることを無いたく取り組みます。
- 2 金網製品製造の事業活動において、環境に配慮した物品等の購入、使用に順次転換していくことを図るとともに、金網原材料の有効活用を推進し、金属材料のリサイクル活動に取り組みます。
- 3 金網製品製造の事業活動において、その製造過程で使用する化学物質を適正に管理し、定期的に確認する事に取り組みます。
- 4 プラスチックリサイクル活動における事業取組として、『静電セパレーター』を開発をし、その販売に取り組みます。
- 5 我々社員一同は、組織共通の環境目標および環境活動計画の内容、手順をよく認識し、自覚等を高めるため、組織が実施する教育に積極的に参加する。
- 6 我々社員一人一人は、環境に関する法規制及び当社が約束したその他の事項を遵守します。
- 7 我々社員一人一人は、環境保全意識を高めつつ、環境経営システムの実施、運営に全員参加で取り組みます。

2008年9月20日	制定
2010年2月10日	改訂
2011年2月15日	改訂
2011年10月5日	改訂
2013年 2月5日	改訂
2017年 2月5日	改訂
2019年 3月5日	改定

石川金網株式会社
代表取締役社長 石川幸男

■環境目標一覧表とその実績

平成31年【2019年】
1月から12月

代表者 (承認)	環境管理 責任者 (取りまとめ)	事務部門長 (作成)	営業部門長 (作成)	製造部門長 (作成)
石川	石川(専)	前田	遊佐	奥津

● 環 境 目 標 と 実 績(三カ年計画)										
環境方針	項目	施行期間 2019年1月～12月		2019年 活動計画	施行期間 2019年1月～12月		2019年 活動計画	施行期間 20年1月～12月		
		目標	実績 (判定)	環境活動計画	目標	実績 (判定)	環境活動計画	目標	実績 (判定)	
		<p>1: 金網製品製造の事業活動を通じて、二酸化炭素の発生・廃棄物の発生・総排水量(水の総使用量)に付、前年を上回るこの無い様取り組みます。</p>								
1: 金網製品製造の事業活動を通じて、二酸化炭素の発生・廃棄物の発生・総排水量(水の総使用量)に付、前年を上回るこの無い様取り組みます。	101 事業活動車両から出る二酸化炭素の量を前年を超えない	各車両燃費の前年値を超えない	前年値: 12.95 実績値: 12.79 (km/L) 評価: 4	各車両の燃費の月別測定・監視	各車両燃費の前年値を超えない	前年値: 実績値: 評価:	各車両の燃費の月別測定・監視	各車両燃費の前年値を超えない	前年値: 実績値: 判定:	
	102 電力使用から出る二酸化炭素の量を前年を超えない	電力使用量の前年値を超えない	前年値: 8970.92 実績値: 8987.25 (kWh) 評価: 4	①デマンド装置の利用で、電力使用減に努める ②エアコンの設定温度を夏28度、冬23度を目安とする	電力使用量の前年値を超えない	前年値: 実績値: 評価:	①デマンド装置の利用で、電力使用減に努める ②エアコンの設定温度を夏28度、冬23度を目安とする	電力使用量の前年値を超えない	前年値: 実績値: 判定:	
	総二酸化炭素排出量の計算	前年値: 44.46t 実績値: 43.35t (電気のCO2係数: 0.324kg-CO2/kWh)								
2: 金網製品製造の事業活動において、環境に配慮した物品等の購入、使用に順次転換していくことを図るとともに、金網原材料の有効活用を推進し、金属材料のリサイクル活動に取り組みます。	103 水の総使用量を抑制する	水の総使用量を抑制する	前年値: 18.42 実績値: 16.33 (m ³ /月) 評価: 4	①水を使用する場合は、こまめに蛇口を閉鎖するなど節水に心がける。 ②漏水のチェックを	103 水の総使用量を抑制する	前年値: 実績値: 評価:	①水を使用する場合は、こまめに蛇口を閉鎖するなど節水に心がける。 ②漏水のチェックを	103 水の総使用量を抑制する	前年値: 実績値: 評価:	
	201 環境ラベル認定等製品を優先的に購入し、また省エネルギー適合性製品に順次転換する。	事務関連備品から環境ラベル認定製品の購入を始める。省エネルギー適合製品への転換はその検討を行う。	前年値: 5.00 実績値: 4.96 (P) 評価: 4	201 紙関連品から再生紙使用を進める。(裏紙の利用も徹底する)	事務関連備品から環境ラベル認定製品の購入を進める。省エネ適合製品への転換はその検討を行う。	前年値: 実績値: 評価:	201 紙関連品から再生紙使用を進める。(裏紙の利用も徹底する)	環境関連法規及び当社の約束事項の遵守を図る。	前年値: 実績値: 評価:	
	202 使用済み金属スクリーンの回収を拡大し資源のリサイクルを行う。	使用済み金属スクリーンの回収取組企業の拡大を行う。	前年値: 4.478 実績値: 4.354 (P) 評価: 5 (現在: 17社)	202 使用済み金属スクリーンの回収を拡大し資源のリサイクルを行う。	使用済み金属スクリーンの回収取組企業の拡大	前年値: 実績値: 評価: (現在: -社)	202 使用済み金属スクリーンの回収を拡大し資源のリサイクルを行う。	使用済み金属スクリーンの回収取組企業の拡大	前年値: 実績値: 判定: (-社)	
3: プラスチックリサイクル活動における事業取組として、『静電セパレーター』を開発し、その販売に取り組みます。	301 『静電セパレーター』の開発とその販売。	『静電セパレーター』の開発後その事業化を図る	前年値: 8.3 実績値: 8.6 (P) 評価: 4	『静電セパレーター』を展示会等でPR活動し、その販売に努める。	『静電セパレーター』の開発後その事業化を図る	前年値: 実績値: 評価:	『静電セパレーター』を展示会等でPR活動し、その販売に努める。	『静電セパレーター』の販売の拡大を図る	前年値: 実績値: 評価:	
	4: 金網製品製造の事業活動において、その製造過程で使用する化学物質を適正に管理し、定期的に確認する事に取り組みます。	401 化学物質の保管場所を設定し、日々その管理を行い、管理者が定期的に確認をする。	化学物質の管理・確認の徹底をする。	前年値: 5.0 実績値: 4.9 (P) 評価: 4	日常の業務において化学物質の管理徹底を行う。	化学物質の管理・確認の徹底をする。	前年値: 実績値: 評価:	日常の業務において化学物質の管理徹底を行う。	化学物質の管理・確認の徹底をする。	前年値: 実績値: 評価:
	5: 我々社員一人一人は、環境に関する法規制及び当社が約束するその他の事項を遵守します。	501 環境関連法規及び当社の約束事項の遵守。	環境関連法規及び当社の約束事項の遵守を図る。	遵守度: 5.0 (P) 評価: 5	全社員が環境関連法規に関心を持ちその遵守に努力する。	環境関連法規及び当社の約束事項の遵守を図る。	遵守度: 判定:	全社員が環境関連法規に関心を持ちその遵守に努力する。	環境関連法規及び当社の約束事項の遵守を図る。	遵守度 判定:
6: 社員一人ひとりが環境保全意識を高めつつ、環境経営システムの実施、運営に全員参加で取り組みます。	601 環境方針に基づき新しい行動指針の全社的理解を深める。	全社員が環境活動計画を分担する	目標値: 10.0 実績値: 9.6 判定: 4	全社員が新環境方針・環境目標カードを常時携帯しその実行に努める	全社員が環境活動計画を分担する	目標値: 10.0 実績値: 判定:	全社員が新環境方針・環境目標カードを常時携帯しその実行に努める	全社員が環境活動計画を分担する	目標値: 実績値: 判定:	
	評価判定5 良くできている(100%以上達成)	評価判定4 目標を達成している(95～100%達成)		評価判定3 目標を若干達成している(90～95%達成)		評価判定2 若干目標に未達である(90%以下)				
	評価判定1 目標を達成していないので、是正処置が必要 (-50%以上)									

■主要な環境活動計画の内容

◎(目標達成) ○(改善が進む) △(現状維持) ×(悪化している)

環境方針	環境目標	環境活動計画 2019年1月～12月]	判定
1: 金網製品製造の事業活動を通じて、二酸化炭素の発生・廃棄物の発生・総排水量(水の総使用量)に付、前年を上回ることをの無い様取り組めます。	各車両燃費の前年値を超えない	各車両の燃費の月別測定・監視	○
	電力使用量の前年値を超えない	①デマンドの利用で、電力使用減に努める	○
		②エアコンの設定温度を夏28℃、冬23℃とする	○
	水の総使用量の前年値を超えない	①水を使用する場合、こまめに蛇口を開閉するなど節水に心掛ける	○
		②漏水のチェック随時行う。	○
	2: 金網製品製造の事業活動において、環境に配慮した物品等の購入、使用に順次転換していくことを図るとともに、金網原材料の有効活用を推進し、金属材料のリサイクル活動に取り組みます。	事務関連備品から環境ラベル認定製品の購入を始める。省エネ適合製品への転換はその検討を行う。	紙関連品から再生紙使用を進める。(裏紙の利用も徹底する)
使用済み金属スクリーンの回収取組企業の拡大		使用済み金属スクリーンの回収を拡大し資源のリサイクルを行う。	○
3: 金網製品製造の事業活動において、その製造過程で使用する化学物質を適正に管理し、定期的に確認する事に取り組みます。	化学物質の管理・確認の徹底をする。	日常の業務において化学物質の管理徹底を行う。	○
4: プラスチックリサイクル活動における事業取組として、『静電セパレーター』を開発し、その販売に取り組みます。	『静電セパレーター』の開発を行う。	『静電セパレーター』製作企業と連携しその開発に努める	△
5.我々社員一同は、組織共通の環境目標および環境活動計画の内容、手順をよく認識し、自覚等を高めるため、組織が実施する教育に積極的に参加する。	教育・訓練の年間計画を策定し、適切なプログラムにより実施する	計画を策定し、計画を実施し、実施結果を記録に残す	◎
6: 社員一人ひとりが環境保全意識を高めつつ、環境経営システムの実施、運営に全員参加で取り組みます。	環境目標、環境活動計画の策定への全社員の参画	全社員が新環境方針・環境目標カードを常時携帯しその実行に努める	◎

■環境活動の取組結果の評価

2019年12月28日

(活動期間: 2019年1月～12月)

- (1): 環境方針1の二酸化炭素の発生抑制と廃棄物の抑制、水の使用量抑制はやや限度に近づきつつあると思われる。今後は現状維持を目標にして、その経過をチェックしていくことにする。
- (2): 平成22年度から環境方針に使用済み金網の回収、リサイクル活動の取り組みを掲げてその推進を図ってきた。平成24年から25年においてその結果が出たと思われる。それ以後、平成31年まで低調ながらも継続されてきている
- (3): 平成25年の環境方針の4に掲げたプラスチックのリサイクル『静電セパレーター』の開発を継続している。エコへの貢献と事業の推進を継続し続けている。本機性能レベルアップの開発を継続し、関連ユーザーへのアピール活動を低調ながら継続している。

■次年度取組

次年度は、廃棄物の排出抑制、リサイクル活動に積極的に取り組む。

1. 紙の使用量の抑制

- ・会議資料、事務手続き書類の簡素化。
- ・両面印刷、両面コピーの徹底。
- ・使用済み用紙の利用。
- ・データ化、データ保存を有効に活用し整備につとめる

2. オフィス等におけるリサイクルの徹底

- ・ごみの分別の徹底。
- ・コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収とリサイクルの促進。
- ・包装、梱包等のリサイクルの取組。

■環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境法規制の遵守状況

法令の名称	関連する施設・適用項目	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に係る法律	・可燃ごみ・不燃ごみ・資源ゴミ (一般廃棄物)	○
荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	・金属スクラップ (事業系廃棄物)	○
廃棄物処理法	産業廃棄物保管施設 ・廃プラ・紙・木くず・廃油	○
東京都公害防止条例	・認可工場	○
労働安全衛生法	安全衛生推進者	○
自動車Nox、PM法	所有車両	○
オフロード法	フォークリフト	○

2. 訴訟の有無

環境関連法規への違反・訴訟ありません。なお、関係当局よりの重大な違反等の指摘は、制定以後過去11年間ありません。

3. 代表者による全体評価

【エコアクション21】の活動に取り組み、従来からの社員は年々意識がたかまってきているものの、社員の入れ替わりで比較的新しい社員への教育という点でさらなる検討が必要と思われる。

継続して『地球環境保全』達成の為、リサイクル活動と事業の融合を進めている。経営における課題とチャンスをつまみ、それぞれの課題の目標値を前年の数値より悪くならないことを目標として活動し、それらの目標はほぼ達成している。ただし、さらに前年の数値を悪化しない事を条件として継続していく活動と、その年度毎の特徴ある目標設定を考えていきたい。

今後も、会社に根付いた【EA21】の意義を社員一人一人がさらに深く理解し、エコ(リサイクル)と事業の融合という目標のもと、その達成に努力するよう指示をする。

2019年12月20日 金曜日